

第 1 回検討会 質問事項に対するご回答

商工中金

1. 中小企業にとってのメリットは？

(日本商工会議所、全国中小企業団体中央会)

⇒ 専門性と難易度の高い分野である、スタートアップ支援、サステナブル経営支援、事業承継を含む事業再生支援といった分野を差別化分野として、特に注力している。例えば、日本初の DDS の実施、リーマンショック以降も、全国の再生案件に関与することで、スキルを維持し、協議会への持ち込み件数も多くノウハウを有する再生支援分野では、投資子会社を通じ①GP として全国規模での事業再生ファンドを組成し、事業承継支援では、各地の金融機関と連携し②全国の拠点を活かした承継先を確保するなど、事業再生や事業承継時における出資業務を強化し、更に踏み込んだリスクテイクを行っていくことを目指す。

業務範囲の制約が見直されれば、このような取組みや、DX 支援等の新たな取組みに関して、子会社等の専門組織の設立も含めて、更に高度な取組みを地域金融機関等と足並みを揃え、連携・協業し、地域の状況に応じつつ先駆的に実施していくことも可能と考えており、高度化、多様化する中小企業の経営課題に対応し、これまで以上に中小企業の皆さまの期待に応えていく。

このような取組を通じ、①経営改善支援による債務者区分の「ランクアップ率 1.5 倍増」、②2025 年には経営者保証に依存しない融資比率民間金融機関トップ、③スタートアップ向け融資額倍増を目指す。

2. 組合と組合員への資金供給という機能は維持して頂く必要がある一方で、組合が減少傾向にある中、都市銀行や地方銀行との差別化は？

(全国中小企業団体中央会)

⇒ 組合支援の機能は、当金庫の根幹であり、差別化された機能。高度化融資等の組合と組合員への金融支援はもちろん行っていくが、金融支援の需要が少なくなっていく中でも、組合には、金融だけでなく情報提供や組合運営のサポートも合わせて行っていく。

また、ヒアリング企業の皆さまからご評価いただいている危機時のセーフティネット機能や全国ネットネットワークを活かしたソリューション提供、スタートアップ支援や再生支援など中小企業のニーズは大きいですが、専門性と難易度の高い分野で差別化していく。

3. 危機時のセーフティネット機能はどうなるのか？ 民営化してスタンスが変わってしまわないか？ （全国中小企業団体中央会、株式会社カネヒロ）

⇒ 昭和恐慌の中小企業運動から生まれた当金庫にとって、セーフティネット機能は DNA であり今後も当然に発揮する。「雨の日に傘をさす」という考え方は全く変わっていない。また、十分リスクテイクしていける企業体力ができてきていると考えている。

4. 現在利用者としてメリットを感じている全国ネットワークは維持するのか？ （株式会社カネヒロ）

⇒ 全国ネットワークは維持していく方針。直接お客さまと対話し、信頼関係を築き、要望に応じていくリレーションシップバンクが当金庫の特徴。全国ネットワークの維持に必要なコストは、業務効率化を進めることでコストを抑えながらサービスを向上させていく所存。

5. 商工中金の信用力（格付）の変化、調達コストの上昇に不安はないか？ （日本商工会議所、全国中小企業団体中央会）

⇒ 格付については、危機対応業務の不正事案を受け、各評価機関ともに、格付の方向性を「ネガティブ」に変更されたが、この4年間、持続可能なビジネスモデルの確立、組織風土を含めた業務改革に取り組んできたことで、現在は「安定的」に変更となっており、また「特別の政府支援を加味しない商工中金単独の信用力」としても、強固な顧客基盤、リスク対比でみた資本充実度などを勘案し「A+」相当と高い格付けを付与している機関もある。

加えて、調達構造についても、着実に預金調達を強化してきたことで商工債による資金調達割合が現状 36%に低下しており、こういったことから十分やっつけていける体質になっていると考えている。